

創世記17 創世記9章18節～29節

「ノアの失敗」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 第3の区分（トルドット）「これはノアの歴史である」
- (2) これまでに確認したこと
 - ①ノアとその一家は、箱舟を造り、大洪水の中を生き延びた。
 - ②ノアとその一家は、箱舟を出た。
 - ③神は、ノアと契約を結ばれた。ノア契約。
 - *エデン契約、アダム契約に続く第3の契約
 - *ノア契約のしるしは、虹である。
 - *ノアは、人類の代表としてこの契約を結んだ。
- (3) きょうはノアの失敗について学ぶ。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 人類の新しい始まり
- (2) ノアの失敗
- (3) ノアの息子たちの反応
- (4) ノアの生涯のまとめ

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 誰であっても、必ず罪を犯したり、失敗したりする。
- (2) 誰であっても、救いを必要としている。
- (3) 救われる方法は、いつの時代でも同じである。

このメッセージは、ノアの失敗を通して、救いの本質について学ぼうとするものである。

I. 人類の新しい始まり（9：18～19）

1. セム、ハム、ヤペテ（誕生の順番 創5：32、6：10、7：13、10：1、I歴1：4）
2. ハムはカナン之父である。
 - (1) ハムの性質が、カナンに受け継がれる。
 - (2) 創12章以降、カナンが重要な役回りを演じることになる。
3. 洪水後、ノアには子どもが生まれていない。人類はノアの息子たちから広がった。

II. ノアの失敗(9:20~21)

1. ノアは、洪水後、新しい仕事を始める。
 - (1) ぶどう畑を作る農夫になった。
 - (2) ぶどう酒を作ること、飲むことは罪ではない。
 - (3) 結果が、罪である。酔うことは罪である。
2. ノアでも罪を犯す。
 - (1) 人間は、誰でも罪を犯す。
 - (2) 酔うことと、裸とは、往々にして関連付けられる(哀4:21、ハバ2:15)。
 - (3) この姿は、義人であり、神とともに歩んだノアとは別人のようである。
(例話) 1970年代のウォーターゲート事件とチャック・コルソンの回心

III. ノアの息子たちの反応(9:22~27)

1. ハムの行動
 - (1) 「父の裸を見て」
 - ①否定的な目で見ている。
 - ②陰部を、情欲の目を見た(同性愛ではない)。
 - ③バウンダリー(領域)の侵害である。
 - (2) 否定的な目の例
 - ①創19:26 ロトの妻
「ロトのうしろにいた彼の妻は、振り返ったので、塩の柱になってしまった」
 - ②出33:20 神を見て、なお生きていることはできない。
「また仰せられた。『あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである』」
 - ③士13:22 マノアは、私たちは神を見たので必ず死ぬと言っている。
「それで、マノアは妻に言った。『私たちは神を見たので、必ず死ぬだろう』」
 - ④Iサム6:19 契約の箱の中を見たベテ・シェメシュの人たち5万70人が死んだ。
「主はベテ・シェメシュの人たちを打たれた。主の箱の中を見たからである。そのとき主は、その民五万七十人を打たれた。主が民を激しく打たれたので、民は喪に服した」
 - (3) ハムの罪の内容
 - ①見たこと。覆わなかった。
 - ②他の人に伝えた。父の墮落を言い広めた。
 - ③父をあざけたこと。
2. セムとヤペテの行動

- (1) うしろ向きに歩いた。
- (2) 裸を見なかった。
- (3) 着物で父の裸をおおった。

3. 呪いと祝福の言葉。創世記に記録されているノアの唯一の言葉。

4. カナンに下る呪い

- (1) 「末の息子」とは、若い方の息子のこと。ハムは真ん中の息子であった。
- (2) ハムの罪のために息子のカナンが呪われている。
 - ①カナンは、ハムの4番目の息子である。ハム自身が呪われたのと同じ。
 - ②彼は、父ハムと同じように行動した可能性がある。
 - *ラビの見解。カナンがノアの裸を見つけ、それを父ハムに伝えた。
 - ③また、彼の性格が父と同じものである可能性もある。
- (3) カナンはハムの性質を発展させた。カナン人の罪の重さ。

創15:16、18:20、21、19:4~10、レビ18:1~3、申12:29~31

- (4) 神の憐れみの要素がある。
 - ①ハムの罪は、4人の息子ではなく、カナンにおいてのみ裁かれた。
- (5) カナンは、兄弟たち(セムとヤペテ)の「しもべらのしもべ」となる。
 - ①I列9:20~21でそれが成就している。

「すなわち、イスラエル人が聖絶することのできなかった人々の跡を継いで、この地に生き残った彼らの子孫を、ソロモンは奴隷の苦役に徴用した。今日もそうである」
 - ②カナン人たちは、イスラエル人の奴隷となった。
 - ③フェニキア人たちは、ペルシヤ人、ギリシア人、ローマ人の奴隷となった。
 - ④ポエニ戦争で、カルタゴ(北アフリカのフェニキア人の植民地)が滅ぼされた時、(前146年)に、カナン人の歴史は終わった。

5. セムに下る祝福

- (1) 「ほめたたえよ。セムの神、主を」。神がたたえられている。
- (2) セムは、真の神に関する知識を所有する。
- (3) 女の子孫は、この系図から出てくる。
- (4) カナンの子孫は、セムの子孫のしもべとなる。

6. ヤペテに下る祝福

- (1) 最も広い地域に広がる。アジアとヨーロッパ。
- (2) 「セムの天幕に住む」 セムと交わりを持つ。
- (3) ヤペテはユダヤ人を肉体的に征服するが、霊的にはユダヤ人がヤペテを征服する。
- (4) ヤペテは、ハムよりも多くセムの神を信じるようになる。
- (5) カナンはヤペテのしもべとなる。
 - ①フェニキア人たちは、ギリシア人、ローマ人の奴隷となった。

- ②黒人は呪いの中にあるという教えは、間違っている。
- ③ハムの息子の1人だけが呪われている。
- ④ハムの子孫は、アフリカ大陸に広がったが、エジプト人は黒人ではない。

IV. ノアの生涯のまとめ（9：28～29）

1. ノアの死
 - (1) 大洪水の後、350年生きた。
 - (2) ノアの一生は、950年であった。
2. 新約聖書の「ノアの日」について（マタ24：37～39、ルカ17：26～27参照）
 - (1) 「ノアの日」とは、「ノアの時代」という意味。
 - (2) 特徴は、神の裁きが近いのに、人々は大洪水の直前まで日常生活を営んでいたこと。
 - (3) これと似たような時代が再び到来する。
 - (4) それは、携挙が起こる直前の時代のこと。
 - (5) 携挙が起これば、大患難時代はすぐにやって来る。
 - (6) しかし、人々はそういう警告には耳を傾けなくて、平気で日常生活を送る。
 - (7) ノアの大洪水は、終末時代を生きる私たちへの警告。
3. 「ノアの救い」について
 - (1) 救いは、信仰により、恵みによって与えられる。
 - (2) 信仰の対象は、神。
 - (3) 信仰の内容は、時代によって異なる。
 - ①ノアの時代では、箱舟を造ってそこに入ること。
 - ②恵みの時代では、イエスが私たちの罪のために十字架で死に、墓に葬られ、3日目に甦ったことを信じること。

結論

1. 誰であっても、必ず罪を犯したり、失敗したりする。
2. 誰であっても、救いを必要としている。
3. 救われる方法は、いつの時代でも、信仰と恵みによってである。